様式第８号

事　業　報　告　書

団　　体　　名	掛川ほんわかブッククラブ
事　　業　　名	掛川ほんわか俳句大賞事業
事 業 内 容 （実施内容とスケジュールを具体的に記載）	１　作品募集の始まり　７/１ ２　新聞の取材で宣伝 「ほんわか俳句」募集開始へ 四季折々の写真で一句 写真見て ハイ一句 掛川文芸グループ作品募集 ３　こどもたちへのアプローチ ・こども園・幼稚園を訪問し説明 ・小学生へ　横須賀小学校　７/１２ ・高校生へ　掛川工業高校　掛川東高校　７/１８ ４　審査会　１０月末日 小川雅子・鈴木大輔・堀内康史・三宅早苗 墨書・額飾り制作・表彰状づくり

	5　写真展　大須賀図書館会場　中央図書館会場 入賞作品の墨書の展示会の開催　作品集発行 掛川ほんわか俳句に2364作品 一般の部最高賞は大平さん 6　授賞式（市長賞・教育長賞・大会賞等）の開催 報徳社大講堂 市長・副市長・図書館長・こども希望部長の来賓と こども政策課職員が参加して実施
事 業 成 果 （事業計画に記載した目的、成果目標及び波及効果に対する達成度等）	・郷土の風景写真から発想を得て俳句を創作することによって、郷土への愛着、文芸する喜びを育成することができた。 ・同時に市民文化活動の発表の場を提供することができた。 ・小学生が積極的に投稿し、活動の広がりを感じた。 ・小中高生が俳句を通して家族で郷土の良さを発見し、その繋がりを深める事ができた。 ・参加者を３０００人としたが、２３６４人に留まった。
事　業　期　間	令和５年６月23日　～　令和６年１月31日
今後の事業展望 （反省点・改善点、短期及び中長期のビジョン、継続性・財源確保等）	１反省点 ・こども園、幼稚園児へのアプローチが難しく、この取り組みが不十分であった。 ２改善点 ・今後園の理解を得ながら、親子で協力して楽しく作句できるような環境を整えたい。

	３　短期及び中長期のビジョン ・市民への広がりをどのようにするか、特にシニア世代への参加を促すために、各シニア団体や施設等への働きかけをどのようにするか検討していきたい。 ・教育委員会の後押しで小中高校と一定の参加者があり、学校側の協力も大きい。今後も教職員の負担にならない様に配慮していきたい。 ４　継続性・財源の確保 ・当初は写真集の売り上げのみで、大会を運営していたが、参加者へ作品集を手渡すことになり、その印刷代が大きな負担となった。幸い３回目からは、市の支援があり、大量の冊子を印刷配布することができた。今後、この規模の大会を開催するとなると、相当な資金が必要となる。その点、市民へ大会を周知し、写真集の売り上げ等により大会を継続して行けるように考えたい。